

《平成 13 年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業（かけまわし）

島根県の小型底びき網漁業（かけまわし）60 隻*の平成 13 年漁期前半の（平成 13 年 9 月 1 日～12 月 31 日）の総漁獲量は 2,211 トン、総水揚げ金額は 10 億 4,711 万円でした。1 隻当たり漁獲量は 36.9 トン、水揚げ金額は 1,745 万円で、漁獲量・金額とも前漁期および平年を下回りました。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は 61 隻ですが、統計は 60 隻分の集計です。

ムシガレイ、メイタガレイ前漁期上回る

近年増加傾向を示していたソウハチの 1 隻当たり漁獲量は 4.2 トンで前漁期を 16% 下回りましたが、平成 12 年、5 年に次ぐ高い値となりました。ムシガレイは近年横這い傾向にあり、1 隻当たり漁獲量は 2.5 トンで前漁期を 14% 上回りました。また、ヤナギムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 0.7 トンで、平成 12 年に次ぐ高い当たりとなりました。メイタガレイの 1 隻当たり漁獲量は 0.9 トンであり、休漁明けの 9 月に前漁期を上回る漁獲がありました。低調に推移しました。

イカ類過去最低！

今漁期前半の大きな特徴として、イカ類の不漁が挙げられます。例年、秋にまとまった漁があるケンサキイカは今期秋漁が低調に推移し、1 隻当たり漁獲量は 0.6 トンで、平成 5 年以降最低の漁獲となりました。また、昨年、好漁であったヤリイカは低調に推移し、1 隻当たり漁獲量は 0.5 トンで、ケンサキイカ同様平成 5 年以降最低の漁獲となりました。近年、1 年おきに好不漁を繰り返していることから今漁期は不漁年に当たるものと推測されます。

ニギス依然低調、キダイ前漁期上回る

依然低調に推移しているニギスの 1 隻当たり漁獲量は 0.3 トンで前漁期を 11% 下回り、平成 5 年以降最低の漁獲となりました。キダイは例年のような小型魚（シバ）のまとまった漁獲は少なかったものの、1 隻当たり漁獲量は前漁期を 51% 上回る 3.7 トンの漁獲が

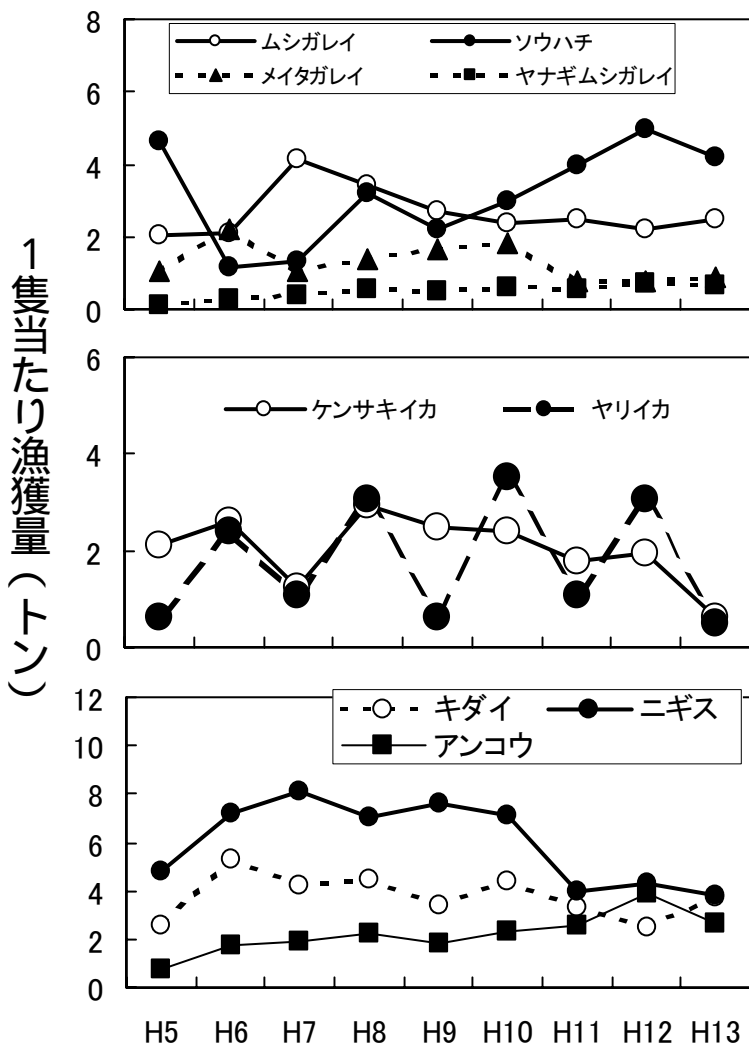


図 1 島根県小型底びき網漁業における主要魚種漁獲量の経年変化

りました。近年増加傾向にあるアンコウの 1 隻当たり漁獲量は 2.7 トンで前漁期を 31% 下回りましたが、資源は高水準であると思われます。

この他、前漁期小型魚が豊漁であったアカムツは中型魚中心に平年並みの漁獲（0.6 トン）で推移しました。また近年好調であるアナコ類も前漁期を下回りましたが、1 隻当たり漁獲量は 1.6 トンで平年を上回りました。

沖合底びき網漁業（2そうびき）

県西部

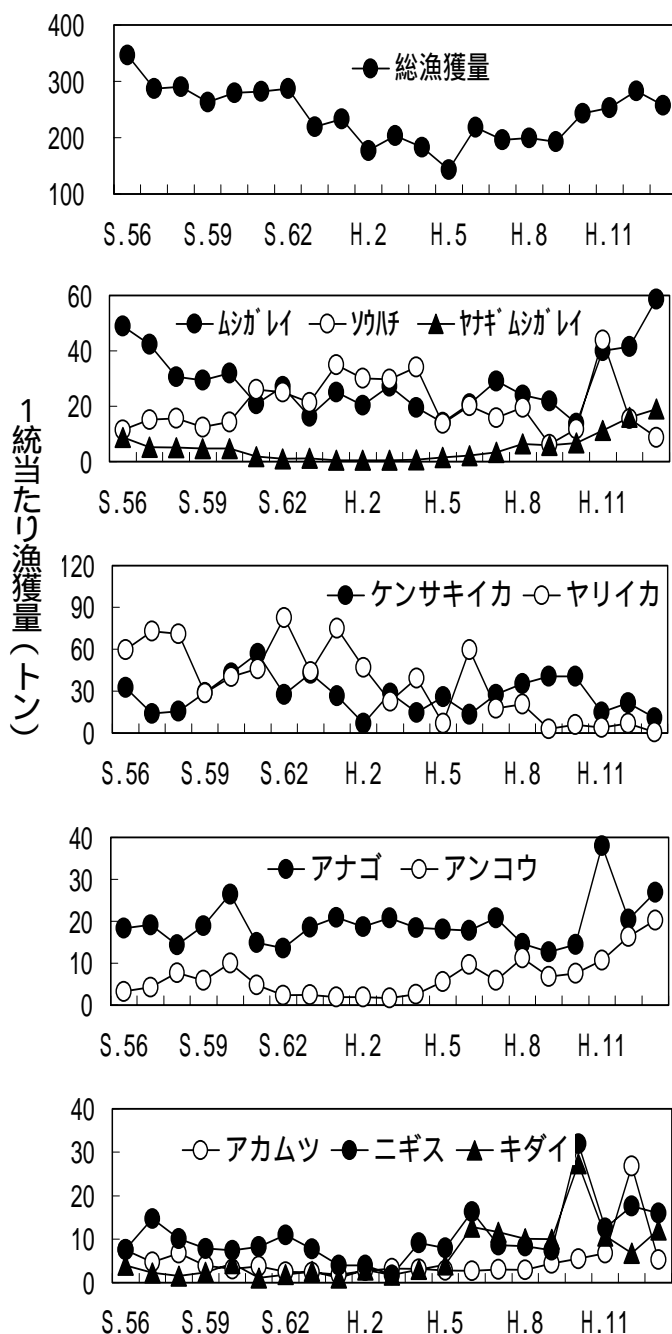


図2 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数6ヶ統）の平成13年漁期前半（平成13年8月15日～平成13年12月31日）の総漁獲量は1,541トン、総水揚げ金額は8億4千万円でした。また、1統当たりの漁獲量は257トンで前漁期を9%下回りましたが、平年（過去20年平均）を7%上回り、水揚げ金額は1億4千万円で前漁期を6%、平年を36%上回りました。

ムシガレイ・ヤナギムシガレイ好調

ムシガレイの漁獲量は平成11年漁期から増加傾向にあり、今漁期は1統当たり59トンで前漁期の1.4倍、平年の2.2倍、また、ヤナギムシガレイは平成4年漁期から増加傾向にあり、今漁期は19トンで前漁期の1.2倍、平年の4.3倍となり、両種とも昭和56年漁期以降最高の水揚げでした。一方、ソウハチは9トンで前漁期の43%、平年を58%下回りました。

イカ類低調

ケンサキイカの漁獲量は1統当たり11トンで前漁期の50%に留まり、平年を61%下回りました。また、ヤリイカの漁獲量は平成9年漁期から数トンと低迷が続き、今漁期は1トンで前漁期の11%、平年の2%と昭和56年漁期以降最低の水揚げでした。

アナゴ・アンコウ好調

アナゴの漁獲量は昭和56年漁期以降2番目の漁となり、1統当たり27トンで前漁期の1.3倍、平年の1.4倍の水揚げでした。また、アンコウは平成10年漁期から増加傾向にあり、今漁期は20トンで前漁期の1.2倍、平年の3.3倍となり、昭和56年漁期以降最高の水揚げでした。

キダイ好調

キダイの漁獲量は平成11年漁期から減少傾向にありましたが、今漁期は1統当たり12トンで前漁期の1.8倍、平年の2倍の水揚げでした。アカムツは前漁期が昭和56年漁期以降最高の水揚げでしたが、今漁期は5トンと前漁期の20%に留まり、平年を6%上回りました。また、ニギスは16トンと前年の91%に留まりましたが、平年を57%上回りました。

県東部

恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業（4ヶ統）の平成13年漁期前半の総漁獲量は860トン、総水揚げ金額は5億3千万円でした。また、1統当たりの漁獲量は215トンで前漁期を14%、平年を10%上回り、水揚げ金額は1億3千万円で前漁期を24%、平年を19%上回りました。

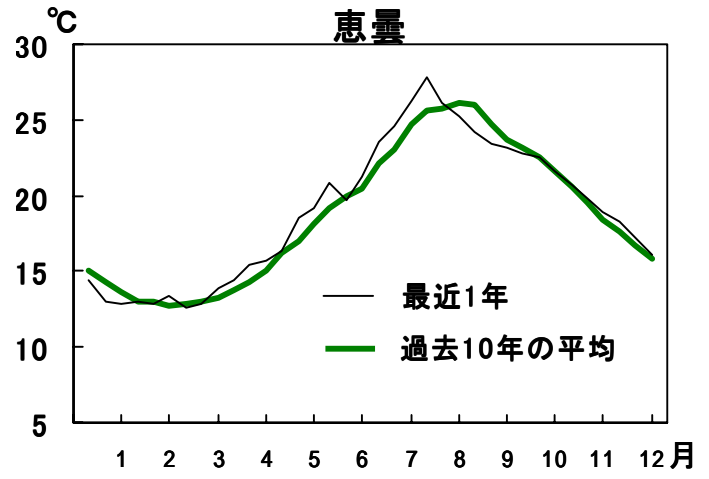
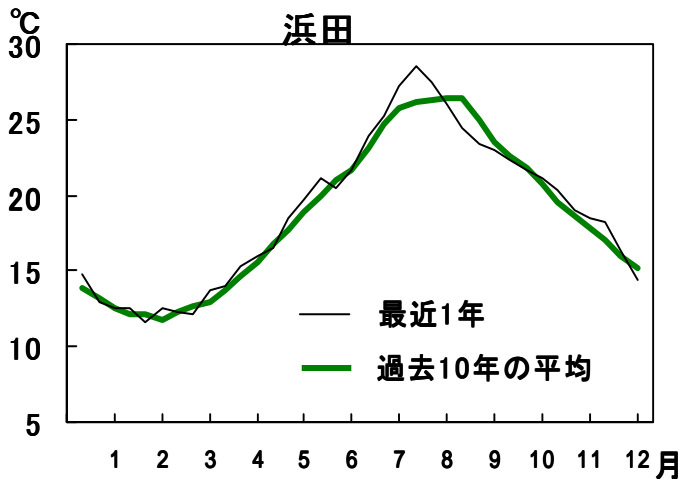
ヤナギムシガレイ・ムシガレイ・ソウハチ・アナゴ好調、アンコウ・ニギス・キダイ・イカ類低調

ヤナギムシガレイの総漁獲量は183トンで前漁期の1.8倍、ムシガレイは103トンで前漁期の1.4倍、ソウハチは45トンで前漁期の1.5倍となり、3種とも昭和63年漁期以降最高の水揚げでした。また、アナゴは82トンで前漁期の1.4倍、昭和63年漁期以降2番目の水揚げでした。逆に減少した種類は魚類（7%～37%減）がニギス12トン、アンコウ86トン、キダイ53トン、アカムツ11トン、イカ類（53%～69%減）はケンサキイカ15トン、ヤリイカ2トン、スルメイカ9トンでした。

《 12月の海況 》

12月	月平均	平年差	評価
浜田	16.3	+0.3	平年並み
恵曇	17.2	+0.5	平年並み

12月の月平均水温は11月に比べ浜田で2.6、恵曇では3.0 下降しました。浜田、恵曇とも「平年並み」の水温経過となりました。



《 12月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量はマサバ、ソウダガツオ、マアジ主体に1,327トン、水揚金額は1億299万円でした。1統当りの漁獲量は332トンで前年の93%、平年の58%でした。水揚金額は2,575万円ですこれは前年を大きく下回っています。恵曇港では、ブリ、ソウダガツオ主体に総漁獲量10トン、水揚金額は234万円でした。1統当りの漁獲量は3トン（前年比：7%）、水揚金額は78万円（前年比：20%）でした。浦郷港ではマサバ、ソウダガツオ、マアジ主体に総漁獲量1,454トン、水揚金額は6,545万円でした。1統当りの漁獲量は364トン（前年比：175%）、水揚金額は1,636万円（前年比：86%）となりました。マサバが比較的好調であるもののマアジが期待したほど伸びず、金額が低調に推移しました。

【イカ釣り漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣り船（5トン以上）によるイカ類の漁獲量は44.5トンで、スルメイカが中心でした。月後半に漁獲を伸ばし、平年、前年を大きく上回りました。魚体は、20入りが主体となっています。一方、西郷のイカ釣り船（5トン以上）では、スルメイカを中心に79.5トンの漁獲で、こちらも平年、前年を上回っています。水温の低下とともに沖合に分布していたスルメイカが山陰沿岸に南下してきたため漁が活発化したものと思われます。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の沖底の漁獲量は367トン、水揚金額は1億8,138万円、1統当りの漁獲量は61.2トン（前年比：99%、平年比：113%）、水揚金額は3,023万円（前年比：89%、平年比：113%）でした。漁の主体はムシガレイ（前年比：142%）、キダイ（前年比：315%）、ニギス（前年比：245%）となっています。

恵曇港の沖底の漁獲量は189トン、水揚金額は1億2,283万円、1統当りの漁獲量は47.2トン（前年比：94%、平年比：96%）、水揚金額は3,071万円（前年比：106%、平年比：101%）でした。漁の主体はアナギムシガレイ（前年比：134%）、キダイ（前年比：183%）、アンコウ（前年比：65%）となっています。

【小型底びき網漁業】

和江・大田市両漁協では、出漁日数が前年に比べ増加しましたが、漁獲量は前年を下回りました。また、1航海当たりの量・金額も前年を12～37%下回っています。和江漁協ではヤリイカ、アカムツ、アンコウが、大田市漁協ではヤリイカ、ソウハチが前年を大きく下回りました。今後、水温の低下にともなってヤリイカ、ソウハチは盛漁期を迎えますが、ヤリイカは最近の漁獲動向より今漁期は不漁の年に当たり、ソウハチは昨年冬期以来、漁獲が減少傾向にあるため今後の動向が注目されます。

【定置網漁業】

隠岐地区ではスルメイカの漁獲量が急増しており、本格的な冬漁のシーズンになってきました。各地でソウダガツオが好調で、特に隠岐地区では平年の10倍近い量となっています。また、隠岐地区、西部地区ではマサバが好調で平年の10倍以上の量となっています。しかし、県全体の漁獲量は平年並みで、マアジ、ブリ、ケンサキイカ、カマスの不漁が影響していると思われます。

【釣・縄】

時化の日が多く、操業日数は平年の50～70%と大幅な減少となりましたが、クロマグロ(ヨコワ)、サワラ類、ソデイカの好調により全体的には平年をやや下回る程度の漁模様となっています。県西部ではクロマグロ、ヒラマサ、ブリ類を中心に量はほぼ平年並み、金額は平年を約10%下回りました。県東部ではサワラ類、ブリ類を主体に量は平年を15%、金額は約40%上回りました。隠岐はソデイカ、メダイ、クロマグロなどが漁の主体となっていますが、スルメイカの不漁などにより量・金額ともに平年を25～30%下回りました。

漁獲統計

平成 13年 12月 1日 ~ 31日

漁業種類	水揚港	延隻数 ・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	56	マサバ・ソウダガツオ・マアジ	23.7ト	1,327ト
	恵曇	6	ソウダガツオ・ブリ	1.7ト	10ト
	浦郷	46	マサバ・ソウダガツオ・マアジ	31.6ト	1,454ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	68	スルメイカ	654kg	44.5ト
	西郷	239	スルメイカ	333kg	79.5ト
沖底	浜田	29	ムシガレイ・キダイ・ニギス	12.7ト	367ト
	恵曇	40	ツギムシガレイ・キダイ・アンコウ	4.7ト	189ト
小底	和江	446	ソウハチ・アンコウ	545kg	243ト
	大田市	331	ソウハチ	383kg	127ト
定置網	浜田	62	マサバ・マアジ・ブリ	835kg	51.8ト
	恵曇	8	ソウダガツオ・スルメイカ	409kg	3.3ト
	浦郷	43	スルメイカ・ソウダガツオ	860kg	37.0ト
釣・縄	浜田	309	クロマグロ・ヒラマサ・ブリ	57.3kg	17.7ト
	五十猛	101	クロマグロ・シイラ・メダイ	228.7kg	23.1ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量 / 延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。